

優勝 おめでとう



硬式野球部
部長 寺戸 節郎

応援を力に部員全員で勝ち取った栄冠

関東五連盟の第一代表として東京六大学、東都という大学野球を代表する連盟の各代表と対戦してこの上ない形で初優勝を飾ることができました。これも、日頃

頃から暖かく見守って下さる近隣住民の方々、地元自治体と市民の皆様、市川仁学長をはじめ大学関係者や後援会、学友会の方々のご支援とご指導の賜物と、心より御礼申し上げます。

日本一という目標の達成に向けて部員各自が使命に燃え、それぞれの果たすべき役割を全うすることにより、関東地区大学野球選手権大会に引き続き、本大会でも各選手が持てる力を存分に発揮してくれました。9月下旬の千葉県大学野球秋季リーグ戦第3節から始めて12連勝で優勝を決めるこれ以上は望めない形で本年度の公式戦を締めくることができました。硬式野球部全員で勝ち取ったそして部員一人ひとりの優勝といえます。



硬式野球部
監督 菅原 悦郎

ここまでのレールを敷いてくれた卒業生と夢をかなえてくれた選手達に感謝

母校の監督に就任させて頂き24年。その間、卒業生の皆さんには並ならぬご苦労と辛抱を強いて参りました。「勝ちたい」「優勝したい」という意識は、過去も現在も全く不変です。しかし、過去においては遠い先にある夢のようなもの

のだったのかもしれませんが。それを、各時代の卒業生達が一歩ずつ歩を進め、5年前に全日本大学野球選手権大会準優勝にまでレールを伸ばしてくれました。これが、夢から現実の目標と明確に変化させる分岐点となりました。今年のチーム目標「日本一」、スローガン「全力」、サブテーマ「全てを力に変える」でスタートしました。が、時に挫折を味わい脱線しながらも選手間で軌道修正を図り「我々は挑戦者」「日本一にふさわしいチーム」という言葉がミーティングで飛び交うようになったところからチーム力の成長を実感しました。

また、コロナ禍での活動においては、市川仁学長をはじめ大学関係者、保護者の皆様、OB、近隣住民の方々よりご理解とご協力をいただきました。そして寺戸節郎部長、コーチ、学生スタッフ、ベンチメンバーを外れた部員の支えは何にも代えがたい誇りであり宝です。私自身が常に目標としていることは、「過去の実績を超える」です。次なる目標へ向けて、新たなチーム（挑戦者）が既に動き出しています。変わらぬご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



主将
武田 登生
商・4年
(中央学院高校)

あきらめない気持ちで優勝という結果に

大学生活最後を最高の形で終わらせることができました。硬式野球部での4年間は決して順風満帆ではなく、2、3年時には悔しい負け方もありました。加えて昨年はコロナ禍で全体練習ができず、4分割、6分割など分かれての練習を余儀なくされましたが、「チームは一つ」と「勝つ」ことを共通認識に練習に励みました。ところが今年の秋季リーグ戦では開幕から4戦で1勝3敗。今思うとここがターニングポイントでした。レギュラー全員で「劣勢になってもあきらめない、自分たちらしさを貫いていけば結果はついてくる」と話し合いました。そして支えてくれたみんなへの感謝を胸に「メンバー以外のために」を合言葉に試合に臨んだことが、明治神宮大会優勝という結果につながったのだと思います。仲間と切磋琢磨した日々は、私の大切な財産です。



学生コーチ
菊池 健太
商・4年
(中央学院高校)

同じ目標に向かって頑張る力を実感

チームが良いときも悪いときも一番近くで選手たちと接してきました。学生コーチの役割は監督・コーチと選手をつなぐこと。練習では選手がやりやすいようなムードづくりを意識しました。ときには厳しいことも言わざるを得ず、「選手のため」と敢えて嫌われ役を演じたこともあります。それでも「勝つ」ことを重ねて自信をつけていくメンバーの姿に、「良いチームになってきたな」と頼もしさを感じました。全員が同じ目標に向かって頑張ること、あきらめないことが、優勝という最高の結果に結びついたのだと思います。僕自身も周りを見ること、自分で考えることなど硬式野球部でたくさんを学ぶことができ、本当に有意義な4年間だったと思います。後輩たちにも頑張ってもらいたいです。



主務
石井 良介
法・4年
(西武台千葉高校)

一緒に戦う気持ちで選手をサポート

本学硬式野球部は明るいことと、先輩後輩の壁がなく仲が良いのがチームカラーですが、一人ひとり個性が強く、それを最大限に発揮したのが今年のチームだと思います。コロナ禍ということもあり、他大学と練習試合が組めない、練習が分割になりコミュニケーションが思うように取れない等、影響を大きく受けました。しかし、選手との信頼関係を築き、常に一緒に戦う気持ちを心がけ、主務として仕事に取り組んでくれたことが誇りです。決勝の慶應義塾大学戦は追いつ追われつのシーソーゲーム。今でも日本一になったという実感がなく、夢のようですが、つらかったことも優勝ですべて報われた思いです。チームの一員としてチームに貢献できたことを誇りに、ここで得たものをこれからの人生に活かしたいと思っています。

硬式野球部Facebookページ
最新情報はこちらをご覧ください。
ご覧の際は「いいね」をお願いします。



硬式野球部特設サイトはこちら
第52回明治神宮野球大会登録選手情報や
全国制覇までの道のりを特設サイトで
紹介しています。

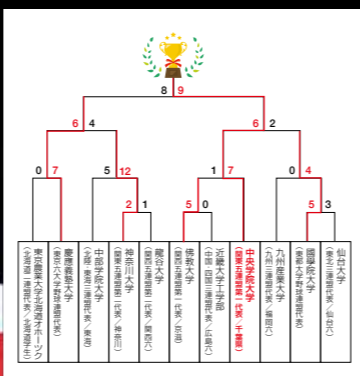


明治神宮外苑創建95年記念 第52回明治神宮野球大会

2021年11月20日(土)～11月25日(木) 場所: 明治神宮野球場



グラウンドとスタンドの選手が一体となって喜びを分かち合った



中央学院大	TIME	JUDGE	B	S	O	AV	HR
8 山田	3:33		0	1	0	2	13
5 武田			2	2	0	0	8
2 佐藤			0	0	1	0	2
9 高野			0	0	2	2	1
3 小野			0	0	2	5	0
5 下野			1	1	0	4	2
7 里山			0	4	2	3	1
4 仲里			0	2	2	5	0
1 山崎			1	1	0	4	2

慶應義塾大	TIME	JUDGE	B	S	O	AV	HR
8 渡部			0	1	0	0	2
7 萩尾			2	2	0	0	2
5 山下			0	0	1	0	2
3 正木			0	0	2	2	5
9 廣橋			1	1	0	4	2
2 福井			0	2	2	5	0
6 梶井			0	0	1	0	2
H 宮本			1	1	0	4	2



本学硬式野球部は、「千葉県大学野球秋季リーグ戦(1部)」にて2季ぶり通算15回目の優勝(春季7回、秋季8回)を果たし、「横浜市長杯争奪 第17回関東地区大学野球選手権大会」では3年連続7回目の出場で初優勝を飾りました。さらに秋の大学日本一の座をかけて「明治神宮外苑創建95年記念 第52回明治神宮野球大会」では初戦(2回戦)で佛教大学に、準決勝にて國學院大学にそれぞれ勝利。そして決勝では慶應義塾大学との3時間35分にわたる死闘を制し、19年ぶり3度目の挑戦で初の全国制覇を達成しました。

【決勝】vs 慶應義塾大学(東京六大学野球連盟代表)

11月25日(木) 第2試合 試合開始 13:45 終了 17:20

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
慶應義塾大学	2	2	0	0	1	0	2	1	0	8
中央学院大学	0	0	0	2	2	5	0	0	×	9

中央学院大学	投手	清水、古田島、上原、山崎一佐藤
慶應義塾大学	投手	増尾、長谷川、生井、森田、渡部淳、森下一福井
本塁打	萩尾2ラン(1回)(慶)、佐藤2ラン(5回)(中)、廣瀬ソロ(7回)(慶)	
三塁打	武田(中)、廣瀬(慶)	
二塁打	廣瀬(慶)、武田(中)、橋本(慶)	



4回裏、武田が3ベースヒット

悲願の全国制覇達成!

決勝戦の相手は、東京六大学連盟史上初の大学4冠と大会連覇を目指す慶應義塾大学。序盤に4点のリードを奪われる厳しい展開となったが、4回裏に2点、5回裏には佐藤の2ランホームランで詰め寄り、さらに6回裏には打者10人の猛攻で逆転に成功。投げ

ては、強打の慶應義塾大学打線を相手に6回まで野柳-清水-古田島-上原の継投でしのぎ、ラスト3回を託されたのは山崎。1点差まで追い上げられ、9回表も無死一・二塁の大ピンチを迎えるも、後続を打ち取り3時間35分にわたる死闘を制した。

【準決勝】vs 國學院大学(東都大学野球連盟代表)

11月24日(水) 第3試合 試合開始 13:19 終了 16:13



2回裏、佐藤が2ランホームラン

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
國學院大学	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
中央学院大学	4	2	0	0	0	0	0	0	×	6

中央学院大学	投手	清水、古田島、山崎一佐藤
國學院大学	投手	池内、坂口、橋本-福永
本塁打	佐藤2ラン(2回)(中)、柳館2ラン(4回)(國)	
三塁打	下山(中)	
二塁打	伊東(國)	

目指せ日本一、いざ決勝の舞台へ!

1回裏、先頭の山田がライト前ヒット、2番武田の送りバント、3番佐藤のレフト前ヒットと佛教大学戦を彷彿させる展開に。4番嘉数が出るも5番度会が四球を選び、6番下山が右中間へ走者一掃の三塁打、さらに8番仲俣のレフト前ヒットで4点を先制。2回

には3番佐藤の特大2ランホームランで6対0とリードを広げた。先発の清水は4回表に2ランホームランを浴びるも、2番手古田島が強打の國學院大学打線を抑える。9回表、無死満塁のピンチも抑えの山崎が3人で後続を断ち、初の決勝進出を決めた。

【2回戦】vs 佛教大学(関西五連盟第一代表/京滋)

11月22日(月) 第3試合 試合開始 13:24 終了 15:50(降雨コールド)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中央学院大学	3	4	0	0	0	0	0	0	0	7
佛教大学	1	0	0	0	0	0	0	0	×	1

中央学院大学	投手	古田島-佐藤
國學院大学	投手	木下、山本実、木村一井上
本塁打	嘉数3ラン(1回)(中)	
三塁打	竹田(佛)	
二塁打	度会、塩塚(中)	



1回裏、嘉数が左中間へ3ランホームラン

明治神宮野球大会初勝利でベスト4進出

1回表、先頭の山田がセンター前ヒット、2番武田の送りバント、3番佐藤のレフト前ヒットで一死。一、三塁となった後、4番嘉数が左中間へ3ランホームランを放つ。直後に1点返されるも、2回に5本の長短打で4点を追加、7対1として試合を優位に進める。投げ

ては先発の古田島がテンポ良く、打たせて取るピッチングで佛教大学打線を7回2/3まで2安打1失点と力投。8回二死後に雨が激しくなり試合が中断、約30分後そのまま降雨コールドとなり、明治神宮野球大会初勝利。準決勝進出を決めた。

横浜市長杯争奪 第17回関東地区大学野球選手権大会

2021年11月1日(月)～11月4日(木) 場所: 横浜スタジアム

【決勝】vs 神奈川大学

2021年11月4日(木)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中央学院大学	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5
神奈川大学	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

7度目の出場で初優勝

決勝戦は、2021年プロ野球ドラフト会議にて横浜DeNAベイスターズに6位指名された梶原を擁する地元神奈川大学。投げたは野柳-清水-古田島の継投で11安打の猛攻を見事にかわし1失点。打っては3番佐藤の2ランホームラン、2番武田のタイムリー等で5対1とし、中央学院大学初の優勝を勝ち取った。試合後の閉会式では、最優秀投手賞に古田島成龍選手、最優秀選手賞に武田登生選手が選出された。

【準決勝】vs 東海大学

2021年11月3日(水・祝)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中央学院大学	1	3	0	0	2	1	2	0	0	9
東海大学	0	0	3	0	1	0	0	0	1	5

15安打の猛攻で19年ぶりの明治神宮大会へ

1回表、2番武田が甘く入ったスライダーをライトスタンドへ。2回には5番度会、6番下山、7番塩塚のヒット、9番中俣、2番武田のタイムリーで3点を追加し、4対0とリード。その後も攻撃の手を緩めず、15安打で9得点の猛攻。投げたは東海大学の強力打線を清水-古田島-山崎の継投で切り抜け、両チームで26安打となった乱打戦を制して、初の決勝進出と、19年ぶりの明治神宮大会出場を決めた。

【2回戦】vs 白鷗大学

2021年11月2日(火)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
白鷗大学	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
中央学院大学	0	0	0	0	0	0	3	0	×	3

逆転勝ちで初戦突破

先発は古田島。危ない投球で4回表、無死二・三塁のピンチも無得点で切り抜ける。7回表二死後、相手8番にホームランを打たれるも、その裏、5番度会がライト前ヒットで出塁。6番下山が四球を選び、7番塩塚のライト前ヒットで無死満塁。一死後、代打秋広が2点タイムリーで逆転。さらに2番武田のレフト前ヒットで3対1。9回表は山崎が完璧なリリーフで三者凡退に打ち取り、初戦を突破。

千葉県大学野球秋季リーグ戦

2021年9月4日(土)～10月10日(日)

<試合結果>

大学名	中央学院	千葉経済	国際武道	東京情報	敬愛	城西国際	ポイント	勝	負	分	順位
中央学院大学	●●	○○	●○	○○	○○	21	7	3	0		優勝
千葉経済大学	○○	△●	●●	○○	○○	19	6	3	1		準優勝
国際武道大学	●●	△○	△○	○○	○○	17	5	3	2		3位
東京情報大学	○○	○○	△●	●●	○○	16	5	4	1		4位
敬愛大学	●●	●●	●○	○○	●○	12	4	6	0		5位
城西国際大学	●●	●●	●●	●●	○○	3	1	9	0		6位

※今シーズンは対戦2試合、全10試合のポイント制(勝:3ポイント、分:1ポイント、負:0ポイント)で順位を決定。

【最優秀投手賞】 佐藤 昇一 【最多勝】 山崎 風 【最優秀防衛率】 清水 一真 【新人王】 下山 昂大 【ベストナイン】 佐藤 昇一、度会 基輝、下山 昂大

